

ドナルド・キーン氏
蔵書整理・調査
プロジェクト

2022・2023



2022～2023 年度「ドナルド・キーン氏蔵書整理・調査プロジェクト」活動報告

I.	はじめに(学長挨拶)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	(社会貢献センター長挨拶)・・・・・・・・・・・・・・・・	2
II.	プロジェクトメンバー・・・・・・・・・・・・・・・・	3
III.	募集説明会(6214 教室、Web)・・・・・・・・・・・・・・・・	4
IV.	募集開始から採用決定まで・・・・・・・・・・・・・・・・	5
V.	協定締結式(東洋大学、東京都北区、ドナルド・キーン記念財団)・・・・・・・・	5～6
VI.	事前研修(於:北区中央図書館)・・・・・・・・・・・・・・・・	6
VII.	プロジェクト開始(終了までの作業工程)・・・・・・・・	7～16
VIII.	連絡調整会議(東洋大学、北区、ドナルド・キーン記念財団)・・・・・・・・	16
IX.	作業現場の取材(朝日新聞、毎日新聞)・・・・・・・・	16～17
X.	ドナルド・キーン生誕100年記念英語歌舞伎・・・・・・・・	17
XI.	角地先生講演会・・・・・・・・・・・・・・・・	18
XII.	白山図書館所蔵展示・・・・・・・・・・・・・・・・	18
XIII.	公開講座・・・・・・・・・・・・・・・・	19～20
XIV.	慰労会・・・・・・・・・・・・・・・・	20
XV.	現場スタッフ(本プロジェクトに関わった学生)からの感想 抜粋)・・・・・・・・	20～21
XVI.	おわりに(関係者挨拶)・・・・・・・・・・・・・・・・	22
	ドナルド・キーン記念財団挨拶(キーン・誠己氏)・・・・・・・・	22
	北区挨拶(浦野氏・吉村氏・松元氏)・・・・・・・・	22～23
	現場監督者挨拶(池上氏・飯村氏)・・・・・・・・	23～24
	現場監修者挨拶(文学部教授 石田仁志氏)・・・・・・・・	24

「ドナルド・キーン氏蔵書整理・調査プロジェクト」は、2022 年度 8 月からプロジェクトが開始し、2023 年度の 7 月末まで学生による蔵書整理・調査が行われた。その後、北区による実査等での指摘事項の修正を行い、2023 年 8 月末でプロジェクトを終了した。

以下、今年度の活動報告を行う。

I.はじめに

ドナルド・キーン先生蔵書整理事業によせて

東洋大学 学長 矢口悦子

ドナルド・キーン先生は日本文学及び日本の文芸研究者として、世界的に広く知られている卓越した研究者です。日本の文学、とりわけ平安時代の文学に新しい光を当て、通史としての日本文学史を完成された業績をはじめとしたご貢献に対して、2008 年文化勲章が贈られました。その同じ年に、東洋大学では先生を学術顧問としてお迎えすることができました。さらに、2011 年には深遠なるご研究の蓄積とその豊かさに対して、東洋大学より名誉博士号を授与することとなり、お受けいただきました。翌年、キーン先生は東日本大震災の惨状にある日本の人々と寄り添い生きてくださる決意のもと、日本国籍を得られたことは広く知られていますが、東洋大学関係者もまた、キーン先生のお姿に励まされ大きな刺激を受けて参りました。

キーン先生は1970年代から東京都北区に書斎を構え、毎年数ヶ月は住まわれたそうです。永住を決意されたときには、蔵書の一部を北区中央図書館に寄贈され、北区はキーン先生に学びたい人々にとって、重要な拠点となっています。

東洋大学では北区赤羽台に3学部を有するキャンパスを創設し、2023年度に完成をしましたが、その計画を練る段階から、北区との濃密な関係が編まれてきています。この三者の関係がちょうど3本の編み糸のように交差して、この度のプロジェクトが実現しました。もとより、人々が書き残した文字を丁寧に分析し読み解く作業は、気の遠くなるような地味な働きであり、人間の手によって織りなされるかけがえのない営みです。「ひとり灯の下にて」書を紐解き、日本文学作品をその人物や作者の意図のさらにその奥にある日本人の美意識や宗教観、自然観にまで分け入って理解しようとされた偉大な研究者の息遣いが感じられる多数の蔵書。とりわけ、小さな文字での書き込みが多くみられた貴重な資料を、一冊ずつ東洋大学の21世紀を生きる学生たちが記録として、そして生きた資料へとよみがえらせるための基礎作業を成し遂げました。これもまた、人間ならではの営みの積み重ねであり、その成果は世紀を越えて意義を持ち続けます。このようなプロジェクトは大学にとっても稀有の機会であり、大学が研究機関として、専門性に基づく研究の拠点であり続けることを証する事業を創造することができた、と申し上げることができると思います。

この度の機会をもたらして下さった方々、一般財団法人ドナルド・キーン記念財団のキーン誠己氏、北区の皆様、そして本学の学生たち、指導をし続けた石田仁志先生と職員チームの皆さん、すべての方に感謝申し上げます。このプロジェクトの成果は今後長く引き継がれ、日米両国の戦争を挟んだ時期を生きた世界的な日本文学研究者の蔵書記録を超えて、新しい知を生み出す土壌となっていくと期待しております。

東洋大学 社会貢献センター長 高山直樹

幼い頃から本が好きで読書に励んでいたというドナルド・キーン先生。大学に飛び級で入学し、ニューヨークのタイムズスクエアで購入した『源氏物語』が元となり、日本への関心を深めていかれました。一方で、太平洋戦争では、沖縄戦にも従軍し、「敵に捕まるくらいなら自決する」という日本兵の行動に疑問を持ち、日本人の精神性や人間性に興味を移されました。戦後は、三島由紀夫、谷崎潤一郎、川端康成、司馬遼太郎、安部公房、大江健三郎といった日本の文豪との交友関係を通し、日本文学を世界へ発信する傍ら、日本人の姿を追い求められました。

キーン先生がNHKの番組で語られた日本人の5つの特徴は、「曖昧(余情)、儂さへの共感、礼儀正しい、清潔、よく働く」でした。特に「曖昧(余情)」「儂さへの共感」「清潔」を強調されていました。

今回、7000冊の蔵書整理、データ化に真摯に関わられた33名の学生は、まさに上記の5つの特徴を持ち、まさに「よく働く」学生でした。1冊1冊のすべてのページに入り込み、その中にあるメモや線、文豪との手紙などを丁寧に整理されたことは、キーン氏の莫大で貴重な研究およびその中にある日本人への託された想いを浮かび上がらせてくれました。

このグローバルな時代の中に、日本人としての価値を世界でどう発揮していくかが問われています。キーン先生の蔵書や研究は、まさに日本人自身を理解するものであり、その原点が集約されているものです。それを整理した学生に改めて感謝をいたします。

そしてこの貴重な機会をつくっていただいた、北区およびドナルド・キーン記念財団、キーン誠己様、学生たちを支えていただいた、北区地域振興部および中央図書館の皆様、また蔵書整理での東洋大学非常勤嘱託であり、現場監督者の池上正男様、飯村桂子様、村上清子様、現場監修者の東洋大学文学部国際文化コミュニケーション学科 教授 石田仁志先生、文学部の先生方に感謝申し上げます。

II. 東洋大学プロジェクトメンバー

教学担当常務理事	金子 光一
学長	矢口 悦子
社会貢献センター長	高山 直樹(福祉社会デザイン学部社会福祉学科)
監修者(教員)	石田 仁志(文学部国際文化コミュニケーション学科教授)
監督者(職員)	池上 正男(東洋大学非常勤嘱託、元本学職員)
監督者(職員)	飯村 桂子(東洋大学非常勤嘱託、元本学職員)
監督者(職員)	村上 清子(東洋大学非常勤嘱託、元東京都北区中央図書館職員)
スタッフ(学生 33 名)	梅村 和佳菜(文学部日本文学文化学科)
	伊藤 恵麗(文学部日本文学文化学科)
	成宮 友基(文学部日本文学文化学科)
	川合 桃(文学部日本文学文化学科)
	木村 元秋(文学部日本文学文化学科)
	矢口 楓(文学部日本文学文化学科)
	舘川 愛(文学部日本文学文化学科)
	石橋 歩実(文学部日本文学文化学科)
	喜多村 心香(文学部日本文学文化学科)
	磯 颯太(文学部日本文学文化学科)
	佐波 真希(文学部日本文学文化学科)
	澤田 莉奈(文学部日本文学文化学科)
	横山 安珠(文学部英米文学科)
	道幸 茜音(文学部史学科)
	岡安 一樹(文学部史学科)
	澤田 亜優奈(文学部史学科)
	齋藤 美幸(文学部史学科)
	吉岡 綾華(文学部史学科)
	清水 華夢威(文学部史学科)
	鈴木 綾乃(文学部史学科)
	金 雪芽(文学部東洋思想文化学科)
	和泉 深舟(文学部東洋思想文化学科)
	松倉 愛美(文学部東洋思想文化学科)
	米花 香(法学部法律学科)
	河村 寛(法学部法律学科)
	KIM SUJI(社会学部社会文化システム学科)
	山田 眞史(社会学部社会学科)
	綿貫 愛海(社会学部社会学科)
	周 秋江(国際学部グローバル・イノベーション学科)
	倉谷 香帆(ライフデザイン学部健康スポーツ学科)
	落合 唯(情報連携学部情報連携学科)
	長塚 翔子(文学研究科国際文化コミュニケーション専攻 博士前期課程)
	大竹 優太(国際観光学研究科国際観光学専攻 博士前期課程)

Ⅲ.募集説明会(6214教室、Web)

6月7日(火)12:15~12:50(学生昼休み時間)に、6214教室および Webex にて募集説明会を行った。
 始めに、東京都北区地域振興部の浦野氏よりプロジェクトメンバーの紹介があり、続いて同区の吉村氏より本プロジェクトについての説明が行われた。
 説明会には100名超の学生が出席した。



↑図書館入口掲示 (A1サイズ)
 東洋大学文学部Twitterでの告知→



IV.募開始から採用決定まで

学内掲示版、本学公式アプリ、ToyoNet-G、ToyoNet-Ace、文学部ツイッター、白山図書館内掲示、文学部教員授業内(主に司書関係授業)での告知による広報活動および募集説明会の結果、106名の応募があり、書類選考と面接により学部生・大学院生29名が選ばれた。

募集開始	2022年6月7日(火)～6月13日(月) 応募は、Google フォームへ志望動機、資格(司書・学芸員等)の有無、勤務可能日等を入力
一次選考	2022年6月14日(火)～6月17日(金) 申請内容による選考を行い、41名が二次選考対象者となった。
二次選考	2022年6月21日(火)～6月29日(水) 本プロジェクト監修者の文学部石田教授および社会貢献センター委員の先生方、事務局による集団(学生6名程度)Web面接を行った。
採用決定	2022年7月1日(金) 上記の選考に基づき、29名が採用となった。



(2次選考面接の様子)

V.協定締結式(東洋大学、東京都北区、ドナルド・キーン記念財団)

2022年7月14日、本学と東京都北区並びに(一財)ドナルド・キーン記念財団で「ドナルド・キーン氏蔵書整理・調査プロジェクトに係る連携協力に関する協定」を締結した。

東洋大学学術顧問・名誉博士であり、北区名誉区民でもあったドナルド・キーン氏の生誕100年を機に、キーン氏が残した約7,000冊の蔵書を整理・調査することで、日本文学・文化研究、ドナルド・キーン研究の基礎資料となる図書目録を作成し、今後の研究発展に繋げるプロジェクトを開始した。



VI. 事前研修(於: 北区中央図書館)

以下のとおり北区中央図書館(赤レンガ図書館)で事前研修を実施した。

- 実施日時 2022年7月19日(火)・21日(木)
 会場 北区立中央図書館 3階ホール
 プログラム
- 14:00 あいさつ
 - 14:05 キーン先生を知る、北区とのつながりを知る
 「一日本文化と日本文学の伝道師 ドナルド・キーンの歩みと北区」
 (解説: 中央図書館 松元氏)
 - 14:35 ドナルド・キーンコレクションコーナー、生誕100年記念展示見学
 - 15:00 図書館見学ツアー実施(20分程度)



VII. プロジェクト開始(終了までの作業工程)

2022年8月1日(月)より、スタッフ29名(学生)・監督者2名(職員)・監修者1名(教員)のプロジェクトメンバーのもと、蔵書整理・調査が開始された。また、2023年度には4月に3名、5月に1名、合計4名の新規学生スタッフが加わり、作業を行った。

次に、プロジェクト開始から終了までの作業工程について記載する。

【ドナルドキーン氏 蔵書整理・調査プロジェクト 作業一覧】

年	月	日	西ヶ原本(5,036冊(啄木本55冊・根岸本34冊・その他55冊を含む))	新潟本(1,177冊)	軽井沢本(212冊)
'22	8	1~2	学生スタッフによる蔵書の開梱、書棚への配置、並び替え。		
		2	蔵書下調べ方法の説明を受け、棚ごとに学生の担当を決め、下調べ作業(データ項目No.63~72に入力する情報の調査とその情報を蔵書に挟まれている付番カード(※1)へ転記)開始。		
		22	データ入力方法の説明を受けて、下調べ作業と並行して72項目あるエクセルフォームへ書誌及び下調べで調査した情報の入力開始。		
	10	27	入力終了したデータを出力し、一巡目チェック(データをA3プリンタ用紙に出力し、入力者以外の学生が現物と突合せチェック)作業開始。チェックが終わった出力データを入力者に戻しデータ修正。		
	12	上旬	西ヶ原分蔵書の下調べ作業終了。		
		22	一巡目データ修正が終了したものを再度出力し、同様の方法で二巡目チェック作業開始。		
26		西ヶ原分蔵書の書誌、下調べデータの入力終了。			
'23	2	3	二巡目チェックが終了したものから、更にデータ修正(入力担当者以外でもデータ修正可)開始。		
		16~24		付番カード(※1)蔵書への挟み入れ作業。	
		17			付番カード(※1)挟み入れ作業。
		21			蔵書の下調べ作業(西ヶ原と同様)開始。
		22	二巡目チェック作業終了。		
		24		蔵書の下調べ作業(西ヶ原と同様)開始。	
	3	7			下調べ作業終了。
		10			下調べ後、データ入力作業(西ヶ原と同様)開始。
		15		下調べ後、データ入力作業(西ヶ原と同様)開始。	
		22			下調べデータ入力作業終了。
		24			入力したデータの二巡目チェック作業(西ヶ原と同様)開始。
	30	二巡目チェックにより修正したデータを整理番号(※2)順にし、整理番号台帳を作成。整理番号台帳をチェックしながら蔵書を整理番号順に並び替える作業を開始。			
	31	二巡目チェックのデータ修正作業終了。			データチェック作業終了。チェック済入力データの修正作業(西ヶ原と同様)開始。

23	4	3			チェック済入力データの修正作業終了。	
		21		入力したデータの一巡目チェック作業（西ヶ原と同様）開始。		
	5	10			下調べデータ入力作業終了。チェック済入力データの修正作業（西ヶ原と同様）開始。	
		11	蔵書を整理番号順に並び替える作業終了。チェックにより修正したデータで整理番号台帳（データ項目No.1～9）を再作成し、蔵書との第1回目突合せ作業開始。			
		16	入力したデータの三巡目チェック(最終見直し)、修正作業開始。			
		17		付番カード(※1) チェック項目の確認作業開始。		
		18		データ一巡目チェック作業終了。		
		19	蔵書の付番カード(※1)に赤丸シールを貼付するためのデータチェック及び台帳（データ項目No.1～9・63～72）(※3)作成開始。			
		24		チェック済入力データの修正作業終了。	付番カード(※1) チェック項目の確認作業開始。	
		25	ドナルド・キーン記念財団(北区中央図書館作業補助)による整理番号確定作業開始。			
		26	再作成した整理番号台帳（データ項目No.1～9）による蔵書との第1回目突合せ作業終了。			付番カード(※1) チェック項目の確認作業終了。
		31		入力したデータの最終見直し(三巡目チェック)、修正作業開始。		
		6	5		付番カード(※1) チェック項目の確認作業終了。	
	16～28		台帳(※3)にもとづき、付番カード(※1)に赤丸シール貼付及び貼付チェック作業。			
	21		蔵書の付番カード(※1)に赤丸シールを貼付するためのデータチェック及び台帳（データ項目No.1～9・63～72）(※3)作成終了。			
	23		蔵書への整理番号(※2)転記作業開始（西ヶ原はデータ項目No.3～7の情報）。		入力したデータの最終見直し(三巡目チェック)、修正作業開始。	
	7	11	蔵書への整理番号(※2)転記及び転記チェック作業終了。			
		12～14	新潟本は「新」、軽井沢本は「軽」のみをそれぞれ転記及び転記チェック作業。			
		20	ドナルド・キーン記念財団(北区中央図書館作業補助)による整理番号確定作業終了。			
		21～26	蔵書と整理番号台帳（データNo.1～9）との第2回目突合せ作業を実施し冊数確定。			
		26	入力したデータの三巡目チェック(最終見直し)、修正作業終了。			
		27	ドナルドキーン氏 蔵書整理・調査について北区・吉村氏が実査を実施。			
	蔵書整理の入力データ72項目についての詳細は、別添資料を確認。					
※1	※2の情報が記載されているカード。このカードが蔵書に挟み込まれている。この付番カードに調査後、キーン氏や贈呈者等が残した、挟込・書込・署名等の情報（データNo.63～72）を転記する。					
※2	各資料に付与した番号。西ヶ原本は書庫に配架されていた状態を再現できるよう付番（データ項目No.3～7）、新潟本と軽井沢本は通し番号を付番。					
※3	整理番号順にプリントした整理番号台帳を作成し、旧蔵者(キーン氏)の書き込みや挟み込み、贈呈者の署名や書き込みがある等の条件を満たしている本をチェックする。					

以下は、上記作業一覧について、写真を交え具体的に説明。

- 1.西ヶ原の書籍梱包開封作業:8/1～2 蔵書をキーン先生の書斎と同様の順番で、本棚へ配置。
133 棚、4,698 冊を配置



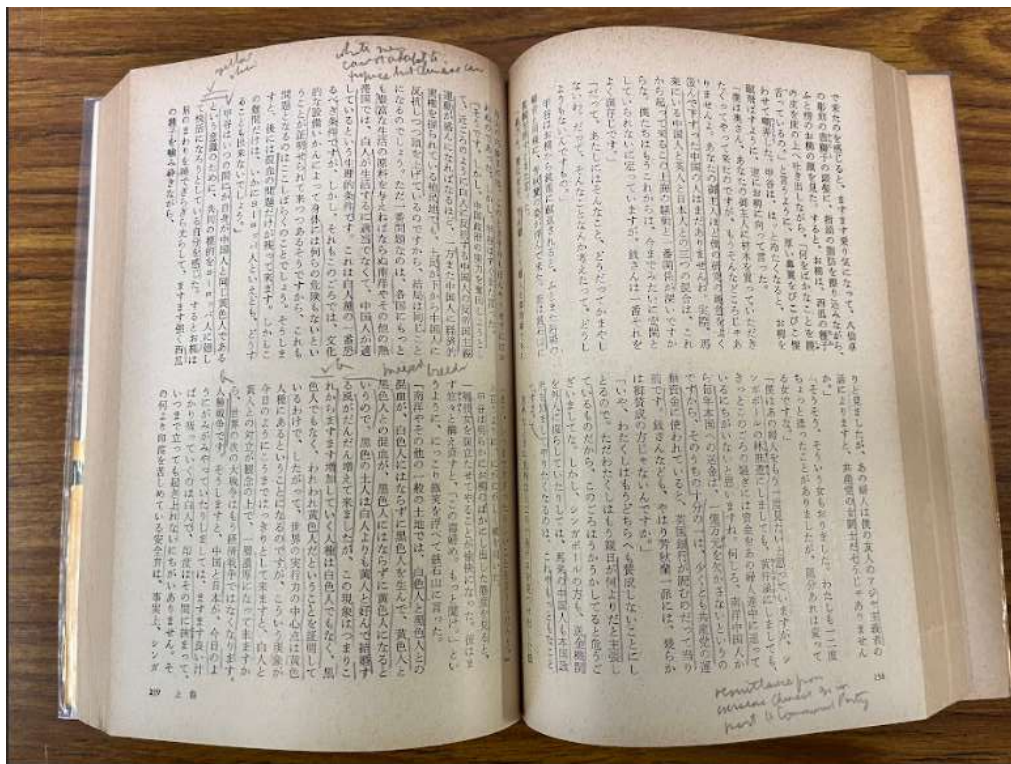
【新潟からの書籍段ボール 参考。西ヶ原は更に大量】



【西ヶ原蔵書・軽井沢蔵書】



【新潟蔵書】



2. 調べ作業開始:8/3~作業方法の説明を受け、棚から1段ずつ担当分けをし、まずは下調べ開始。
 1冊ずつ、本の中にある書き込み、挟み込みなどを全ページ丁寧に確認し、北区が作った本に挟んである付番カード下段に記入。
 すべての下調べ作業が終了したら、本棚に戻し、次の書籍の下調べに入る。



【付番カード:各資料に付与した番号。西ヶ原本は書庫に配架されていた状態を再現できるよう付番(データ項目 No.3~7)、新潟本と軽井沢本は通し番号を付番されている。このカードが蔵書に挟み込まれている。この付番カードに調査後、キーン氏や贈呈者等が残した、挟込・書込・署名等の情報(データ No.63~72)を転記する。】

3.入力作業:書棚から入力のためにもう一度書籍を取り出し、Excelファイルに下記72項目を入力

入力規則		数字・アルファベットは、半角入力 フリガナは分ちから書き(単語、接続詞で区切る)外国語日本語表記に用いる「・」は入力しない			
	項目	No	和書(入力例)	洋書(入力例)	備考
番号	通し番号	1	0001～9999		
	元書庫	2	西ヶ原/新潟/宇佐美		71・7Jは宇佐美、啄木は西ヶ原
	階・棚・他	3	7A/8A/X/啄木		誠己氏資料は除外/新潟は空欄
	連	4	2		
	段	5	3		X/啄木/新潟資料は空欄
	位置	6	前/右/後/上右		
	番号	7	1～99		X.啄木は通し番号
本書名・著者	書名1-1	8	漢字	原綴り	洋書名の大小文字は図書表記または、引用データのとおり。
	書名1-1フリガナ	9	かかナ	同上	
	書名1-2	10	原書名原綴り	漢字(日本語原書名・邦題)	翻訳本:書名1;現物のとおり、書名2;原書名を原綴り入力(洋書邦題あれば2に)※
	書名1-2フリガナ	11	同左	かかナ(日本語原書名・邦題)	
	副書名1-1	12	漢字	原綴り	翻訳本:副書名1;現物のとおり、副書名2;原書名を原綴り入力(洋書邦題あれば2に)
	副書名1-1フリガナ	13	かかナ	同上	
	副書名1-2	14	原書名原綴り	漢字(日本語原書名・邦題)	副書名2件以上の場合は「;(セミコロン)」区切りでこの項に入力
	副書名1-2フリガナ	15	同左	かかナ(日本語原書名・邦題)	
	巻の巻次	16	漢字	欧文大小文字	数字表記は、15/一五/十五等図書の表記に従う
	巻の巻次フリガナ	17	数字	00001～99999	雑誌の場合通巻を記入
	巻冊記号	18	第36巻第4号		雑誌の場合記入
	著者名1-1	19	漢字	原綴り	①翻訳本:著者1;現物のとおり、著者2;原著者を原綴り入力 1-1:1-2、2-1:2-2は、日本語:外国語(外国語:日本語)として対を成す。 和書(翻訳本除く)、翻訳本のない洋書のばあい2-1,2-2は空欄。
	著者名1-1フリガナ	20	かかナ	同上 姓,名の順	
	著者名1-2	21	原綴り	漢字(日本語原表記)	②「著」「訳」「編」「監修」等もこの欄に記載。
	著者名1-2フリガナ	22	同左姓,名	かかナ(日本語原表記)	
	著者名2-1	23	漢字	原綴り	③複数著者の場合、奥付の記載順に入力
	著者名2-1フリガナ	24	かかナ	同上 姓,名の順	
著者名2-2	25	原綴り	漢字(日本語原表記)	④3名以上の場合は2-1に「;(セミコロン)」区切りで記入。 ⑤著者名フリガナは、姓,名の順で入力。姓と名の間には「.(カンマ)」を入力	
著者名2-2フリガナ	26	同左姓,名	かかナ(日本語原表記)		
著者名2-2フリガナ	27	同左姓,名	かかナ(日本語原表記)	⑥解説やあとがきなどの著者は内容細目に入力	
巻書名・著者	巻書名1-1	28	漢字	原綴り	翻訳本:巻書名1;現物のとおり、巻書名2;原書名を原綴り入力(洋書邦題あれば2に)
	巻書名1-1フリガナ	29	かかナ	同上	
	巻書名1-2	30	漢字	漢字(日本語原書名・邦題)	
	巻書名1-2フリガナ	31	かかナ	かかナ(日本語原書名・邦題)	
	巻著者名1-1	32	漢字	原綴り	①翻訳本:著者1;現物のとおり、著者2;原著者を原綴り入力 1-1:1-2、2-1:2-2は、日本語:外国語(外国語:日本語)として対を成す。 和書(翻訳本除く)、翻訳本のない洋書のばあい2-1,2-2は空欄。
	巻著者名1-1フリガナ	33	かかナ	同上 姓,名の順	
	巻著者名1-2	34	原綴り	漢字(日本語原表記)	②「著」「訳」「編」「監修」等もこの欄に記載。
	巻著者名1-2フリガナ	35	同左姓,名	かかナ(日本語原表記)	
	巻著者名2-1	36	漢字	原綴り	③複数著者の場合、奥付の記載順に入力
	巻著者名2-1フリガナ	37	かかナ	同上 姓,名の順	
巻著者名2-2	38	原綴り	漢字(日本語原表記)	④3名以上の場合は2-1に「;(セミコロン)」区切りで記入。 ⑤著者名フリガナは、姓,名の順で入力。姓と名の間には「.(カンマ)」を入力	
巻著者名2-2フリガナ	39	同左姓,名	かかナ(日本語原表記)		
叢書名	40	漢字	原綴り	⑥解説やあとがき、年譜などの著者は内容細目に入力	
叢書名フリガナ	41	かかナ	同上	シリーズ名 ○○文庫 ○○新書 など	
叢書番号	42	数字	00001～99999		
出版情報	出版者	43	出版者名	欧文大小文字	社種(株式会社等)を除いた社名を記載
	出版者フリガナ	44	かかナ	同上	
	出版地	45	漢字	欧文大小文字	発行者所在地 23区内は「東京」のみ記載
	出版年月日	46	2012/3/10 2012/3/		日の記載がない場合は月の後ろに「/(スラッシュ)」
刷年月日	47	2015/5/10			
刷情報	48	第2刷 初版第1刷		現物の標記通りに記載	
資料形状	ISBN	49	978-4-10-331709-8		ハイフンも入力 「978-」が省略されている場合あり。
	定価	50	¥1900/¥2090(税込)/非売品/不明		本体価格がない場合、税込み価格に(税込)と記入
	ページ数	51	250p 105p 図版10p		図版は別記載
	大きさ	52	21cm		mm以下は切り上げ
	形態	53	ハードカバー:HC/ハードカバー-布貼:HC布/ハードカバー-革貼:HC皮/ソフトカバー:SC/ペーパーバック:PB/文庫/新書/雑誌/抜刷り/その他		
	本文の言語	54	欧文小文字 jpn eng		言語表記別途
分類	分類番号	55	913.6		桁数は引用データ(MARC)に従う
	図書記号	56	シ:著者姓2文字 KE:著者姓2文字		著者名姓2文字
内容	内容紹介	57	MARC等から引用		北区立図書館サイトにはあり
	内容細目	58	漢字		内容が複数ある場合すべて記入 あとがき/解説含む
	一般件名	59	漢字 :枕草子 大化の改新		件名;関連書名等 複数ある場合は「.」区切りで記入
	一般件名フリガナ	60	かかナ		
	個人件名	61	漢字 :渡辺華山 アーサー・ウェイラー		資料に関する個人名を記入
	個人フリガナ	62	かかナ		
	個人件名原綴り	63	欧文大小文字		外国人原綴り
蔵書情報	旧蔵者挟込情報	64	形状、内容、人物、ページ等		キーン氏が記入したものはこの項に記載
	旧蔵者書込情報	65	内容、ページ等		
	旧蔵者署名情報	66	内容、ページ等		贈呈者等の記入したものはこの項に記載
	贈呈者等挟込情報	67	形状、内容、人物、ページ等		
	贈呈者等書込情報	68	内容、ページ等		
	贈呈者等署名情報	69	形状、内容、人物、ページ等		
	個人名	70	蔵書情報に記載される個人名		
	その他	71	蔵書に関する事項		記載項目がほかにないもの
	資料保存状態	72	表紙取れ/ページ外れ/シミあり		資料状態を記載
	外装	73	外函/帯/カバー		本の付属物を記載/パラフィン紙は記載不要

書籍の基本情報は、国立国会図書館、北区中央図書館のデータベースを参考に輸入。しかし、情報がない部分も項目にあり、個別に調べなければならない項目もある。

また、古い書籍で、フランス語、ロシア語等の書籍もあるため、調べながらの作業もあり、非常に難儀している学生もいる。和書、洋書、全集、雑誌で入力方法も違う。

これに 63～72 に該当する短冊に記入した書籍の書き込み等の情報を追加し、一覧表がやっと完成。

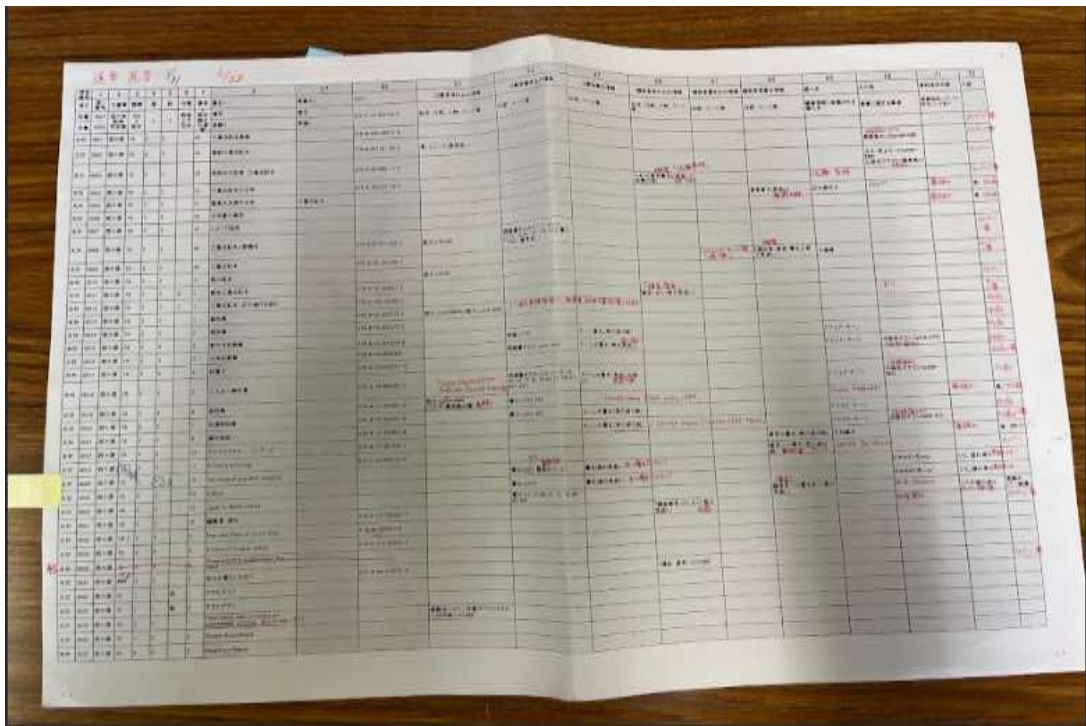
1冊の書籍を上記 72 の項目を確認しながら入力する。



【出力すると1冊につき、横 1m20cm巻物の様なリスト】

4.データチェック:①1 巡目チェックとして入力したデータを紙に出力。その紙データを入力した担当者以外が紙ベースでチェックし、赤入れをして担当者に返却。担当者が確認し、データの修正。②2 巡目チェックとして、更に1 巡目修正が完了したデータを紙に出力し、再度チェック。修正があればデータを修正。③3 巡目チェックは、最終チェックとして修正があれば都度、データを修正。

*西ヶ原の蔵書から調査、整理をスタートし、続いて軽井沢、新潟蔵書の調査・整理を行った。

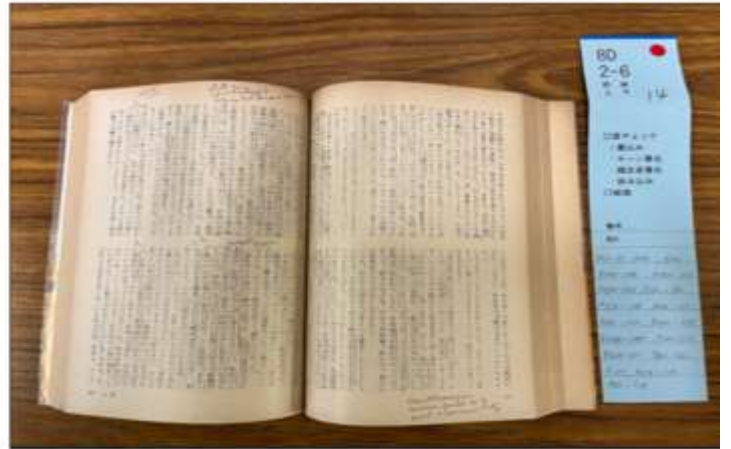


【赤入れ修正をした紙データ】

5. 蔵書を整理番号順に並び替える作業:修正したデータを整理番号(各資料に付与した番号。西ヶ原本は書庫に配架されていた状態を再現できるよう付番(データ項目 No.3~7)、新潟本と軽井沢本は通し番号を付番)順にし、整理番号台帳を作成し、整理番号台帳をチェックしながら蔵書を整理番号順に並び替える



6. 蔵書の付番カードに赤丸シールを貼付するためのデータをチェック及び台帳(データ項目 No.1~9・63~72)作成。旧蔵者(キーン氏)の書き込みや挟み込み、贈呈者の署名や書き込みがある等の条件を満たしている本をチェックし、赤丸シールを付番カードに貼る。



7. 整理番号を蔵書に転記作業:確定した整理番号を1冊ずつ鉛筆で指定の位置(蔵書の背を左にして表紙から最初にある白紙のページの下の方)に鉛筆で転記する。西ヶ原本は付番カードに記載された整理番号、軽井沢本は「軽」新潟本は「新」

8. 北区、財団による実査(7/27(木)午後1時30分):確認作業を繰り返し、完成した成果物としてのデータ内容と現物に齟齬がないか、実査を受審。10冊を選書し、実査を行った。

【実査対象蔵書】(No.は7月現在)

①1886 徳川合理思想の系譜、②2725 伝統と文学、③3018 東西文学論、④3558 倚松庵の夢、⑤3662 渡邊崋山、⑥3710 文学的回想集、⑦4111 平家物語の虚構と真実、⑧4356 The Tale of The Bamboo Cutter、⑨新潟0197 日々編集、⑩新潟1088 Texaco

講評内容:分ち書きの間違いや書名に確認が必要な箇所は見られるが、全般的にしっかり記載されており問題はない。「書き込み多数」の記載については、内容の理解にニュアンスの違いがあると思われるので、「書き込み多数」の意味についての注釈が必要と思われる。との講評があったが、概ね蔵書整理・調査データが整っているとの講評を得た。8月一杯、講評内容を基にデータの精度を上げ、最終納品を目指すこととした。



9. 最終データ完成(2023.8.28):データ修正をし、最終データが完成。翌8/29(火)に最終成果物を北区納品。最終冊数 6,425 冊【西ヶ原本(5,036 冊(啄木本 55 冊・根岸本 34 冊・その他 55 冊を含む))、新潟本(1,177 冊)、軽井沢本(212 冊)】

VIII. 連絡調整会議(東洋大学、北区、ドナルド・キーン記念財団)

以下の日程で3者会議を実施し、作業の進捗状況、業務上での課題および今後のスケジュール等について情報共有等、話し合いが行われた。

第1回: 2022年 9月 5日 (月)

第2回: 2022年 11月 30日 (木)

第3回: 2023年 3月 27日 (月)

IX. 作業現場の取材(朝日新聞・毎日新聞)

2022年9月29日(木)に毎日新聞、2022年10月26日(水)に朝日新聞による作業現場の取材が行われた。

(毎日新聞取材)

・2022/10/25 【新聞掲載】毎日新聞(夕刊)5面/故ドナルド・キーン氏残した蔵書 7000冊 東洋大生らが整理・調査

<https://mainichi.jp/articles/20221025/dde/018/070/022000c>

⇒有料記事につき、全文閲覧不可。



(毎日新聞の取材を受けている様子)

(朝日新聞取材)

・2023/1/4 【Web掲載】朝日新聞英語サイト/Students lay groundwork for research project on Donald Keene

<https://www.asahi.com/ajw/articles/14798660>

・2022/11/16 【新聞掲載】朝日新聞 DIGITAL／夢は「ドナルド・キーン VR 図書館」蔵書整理で東洋大の学生が奮闘

<https://www.asahi.com/amp/articles/ASQCG728RQB0OXIE02G.html>

⇒有料記事につき、全文閲覧不可



(朝日新聞の取材を受けている様子)

X.ドナルド・キーン生誕 100 年記念 英語歌舞伎

「翫賣戀曳網(いわしうりこいのひきあみ)」(三島由紀夫作) 上演をめぐる

講演日時:2022 年 9 月 29 日(木) 18:00～19:30

講演会場: 早稲田大学小野記念講堂

[英語歌舞伎『翫賣戀曳網\(いわしうりこいのひきあみ\)』\(三島由紀夫作\)をめぐる\(9月29日\) - ドナルド・キーン記念財団 \(donaldkeene.org\)](#)

上記の講演会に本プロジェクトメンバーの学生(2名)が招待され、毎日新聞で感想が紹介された。

<https://mainichi.jp/articles/20221004/k00/00m/040/349000c>

⇒有料記事につき、全文閲覧不可



(2022 年 10 月 7 日(金) 作業現場の見学の際に、英語歌舞伎のローレンス・コミンズ氏、キーン誠己氏、北区の浦野氏、プロジェクトメンバーと撮影)

X I . 角地先生公開講演会

講演日時	2022年11月24日(木)13:00～14:30
講演会場	白山キャンパス 6202 教室
文学部キャリア講演会	「翻訳という仕事」
講師	角地 幸男(ドナルド・キーン氏著作の翻訳を手掛ける)
コーディネーター	文学部国際文化コミュニケーション学科 石田仁志教授(蔵書整理・調査プロジェクト監修役)
主催:文学部	共催:社会貢献センター
受講数	合計 138 名(学生 87 名、学内関係者 7 名、学外関係者 9 名、一般 35 名)



X II . 白山図書館所蔵展示

ドナルドキーン氏生誕100年および蔵書調査・整理プロジェクトが行われていることに伴い、白山図書館で特別所蔵展が開催され、図書館で所蔵しているドナルド・キーン氏の書籍等が紹介された。
蔵書整理のスタッフや監修者の石田教授もおすすめ本のコメントを記載した。

展示期間:2022年11月7日(月)～2022年12月16日(金)
場所:東洋大学附属図書館 白山図書館 1F～B1F 階段踊り場
タイトル:「日本文学の伝道師ドナルド・キーン」
主催:白山図書館



(角地先生キャリア講演会終了後、キーン財団、北区の関係者および角地先生が展示を見学)

XIII.公開講座(主催:社会貢献センター 協力:北区))

以下のとおり、2023 年度春期の公開講座を開催した。

申込者 37 名(対面 28 名、Web 9 名)

		竹村牧男(全東洋大学学長・ 名誉教授)	ドナルド・キーン先生と東洋大学
第1回	5月20日 (土)	石田仁志(東洋大学文学部教 授)	ドナルド・キーン「正岡子規」「石川啄木」 にみる明治の青年像
第2回	6月10日 (土)	森忠彦(毎日新聞記者・ドナ ルド・キーン記念財団理事)	人間ドナルド・キーンの魅力
第3回	7月8日(土)	尾崎真理子(文学評論家・早 稲田大学教授)	ドナルド・キーンの日本文学観



第1回目



第2回目



第3回目



XIV.慰労会

開催日時:2023年8月4日(金)

開催時間:12:10~12:50

開催場所:甫水会館 301

7月末で北区の実査が終了し、プロジェクトスタッフの慰労会が行われた。

始めに、監修者の石田教授から開式の挨拶があり、次にスタッフ学生から本プロジェクトの感想等が述べられた。最後に、監督者の池上氏より閉式の言葉があり、和やかに会が終了した。



XV. 現場スタッフ(本プロジェクトに関わった学生からの感想 抜粋)

・今年度4月からという短い間ではありましたが、様々な経験をさせていただきありがとうございました。また、教育実習などで欠勤も多く、大変ご迷惑おかけしました。本当に、ありがとうございました。

・1年間ありがとうございました。蔵書の調査や整理をするアルバイトをやりたいとずっと思っていたので、参加させていただけたことに感謝しております。このプロジェクトを通して自分のスキルアップに繋がりました。な

により関係者の方々が温かい方ばかりで楽しく作業をすることができました。このプロジェクトが終わってしまうことは寂しいですが、経験を就職活動や仕事に活かしたいと思います。本当に1年間ありがとうございました。

・大変貴重なプロジェクトに携わらせていただき、ありがとうございました。自分が専攻している学問に活かすだけでなく、北区民として地域に貢献することができた経験でもありました。ドナルド・キーン蔵書整理プロジェクトに携わることができたのは、自分の誇りであると感じています。短い間ではありましたが、大変お世話になりました。またこのような機会がありましたらよろしくお願いたします。本当にありがとうございました。

・本アルバイトを経験して、実際に偉人の生きた証を見ることが出来て感動いたしました。また地道な作業がとても多かったですがここで身につけた忍耐力は社会人でも生かせると感じております。

・とても貴重な体験ができて、参加してよかったなと思っています。蔵書の分野の幅がとても広くて、あまり自分が手に取らないタイプの本について知ることができたので、とても楽しかったですし、この経験を今後も活かしていけたらいいなと思います。

・なかなかできない、貴重な経験をさせていただいたと思っています。本当にありがとうございました。

・有意義なプロジェクトの一員となれたことを嬉しく思います。貴重な活動に参加させていただき、ありがとうございました。

・一年間蔵書整理に関わってきていろいろな人に出会うことができたり、講演会などに参加したりするなど貴重な経験をする事ができました。また、司書課程で学んだことをこの蔵書整理を通して改めて確認することもでき、地道な作業も多く大変な部分もあったけれどこのプロジェクトに参加することができて良かったです。

・約1年間にわたり、貴重な体験をさせて頂きました。キーンさんの息遣いが感じられる蔵書整理は大変興味深く、またたくさんの人に慕われていらしかったことがよく分かりました。ありがとうございました。

・プロジェクト開始当初から関わらせて頂きました。本に挟まった手紙やメッセージでキーン氏の交流関係が知れたことも興味深く面白かったですし、司書資格を学んでいる身としても、目録作業に関わられたことがとても糧になりました。始まる前はほとんど知らない存在だったのに、今ではキーン氏がとても身近な人のように感じられます。作業の中で難しく詰まることもありましたが、非常に貴重な経験をさせて頂いたと感じています。

・世界的にも著名な研究者の蔵書を見ることができたのは貴重な機会でした。

・本に関する知識は深まったと思う。今回作成に携わった目録が、今後キーン先生について研究する人の一助になる事を願っています。

・図書館の職についてとしてもなかなかできない貴重な体験をすることができて良かったです。キーン先生自筆のものをはじめとする作家やその妻たちの手書きの文字、読みこまれてボロボロになった本からは、新品の本とも、図書館に所蔵されている本とも違う、時代の気迫のようなものを感じ新鮮でした。また同時に、図書館の中心的な仕事である資料の収集・保存・整理作業が、想像以上に繊細で、難しく、柔軟性が求められる仕事であることも実感しました。今回は7000冊でしたが、それを遥かに超える量を保存・整理する司書さんのお仕事とその知識、経験値は、やはり軽視されるものではなく、専門職として守り受け継がれていくべき物だと思います。私はいずれ図書館司書になりたいと考えているため今回のアルバイトに応募しましたが、実際の現場のお仕事を僅かながらも経験できたことは、非常に貴重な体験でした。至らないことばかりでしたがありがとうございました。

・司書資格取得の学習を進めていく上で、実際に多くの資料に触れ、調べていった経験は非常にためになるものでした。貴重な経験をありがとうございました。

XVI.おわりに(関係者挨拶)

一般財団法人ドナルド・キーン記念財団

代表理事 キーン 誠己氏

父ドナルド・キーンが2019年2月に亡くなってから、遺品の整理は重要な課題でした。特に父が最も大切にしていた蔵書については喫緊の問題でした。丹念に読み込んで鉛筆書きのメモや傍線のある書籍、最晩年まで手に取って愛情深く見つめ慈しんでいた書籍など極めて貴重なものも含まれていました。

幸いなことに北区と東洋大学の深いご理解とご協力のもとドナルド・キーン記念財団との三者の協定書が2022年7月に締結され、7000冊に近い蔵書の整理と調査、データ化が始まりました。ほぼ一年間、東洋大学の33名の学生さんたちがこつこつと一冊一冊丁寧に作業を続けて下さいました。その姿はととても頼もしく思えました。学生さんたちが大きな力になり作業を進めて下さったことは、常に若い人を育てることを考え、多くの優れた後継者を育てた父にとってなにより嬉しいことだと思います。

泉下の父とともに北区と東洋大学の皆様方に心より、深く感謝申し上げます。

東京都北区地域振興部参事

事務取扱文化施策担当課長 浦野芳生氏

ドナルド・キーン氏が遺した膨大な愛蔵書の調査・研究等の資料整理を、ドナルド・キーン記念財団、東洋大学、北区の三者が取り組み、一年が経過し令和5年7月末にリストの整理も一段落いたしました。

三者で役割分担し、財団が、キーン氏の蔵書約7000冊を提供し、北区は、作業場所などの用意と全体の進行管理を担わせていただきました。

東洋大学には、文学部の石田教授とエクステンション部のもとに、学生の皆さんに実際の作業に取り組んでいただきました。視察の際には、学生が黙々と書籍を調査し、パソコンに入力している姿に接し感心いたしました。

キーン氏も、学生の熱心なかかわりに満足されていることでしょう。

このリストは、新聞各社も今後の活用に注目しています。北区としましては、令和6年3月公表に向け準備を進め、PR用の冊子も作成いたします。

三者の取り組みの成果が、各地で開催される展覧会や研究者の研究に活用されることを願っています。また、このプロジェクトを通じて、三者の連携を更に深めてまいりたいと思います。

東京都北区地域振興部

文化施策担当課 主査 吉村仁男氏

ドナルド・キーン氏蔵書整理・調査プロジェクトでは、東洋大学エクステンション部のみなさま、文学部の石田先生、そして何よりも一生懸命がんばっていただきました、学生のみなさまには大変お世話になりました。

このプロジェクトで最初に私が印象深く感じたことは、東洋大学でのアルバイト募集説明会でした。参加してくれる学生はいらっしゃるのかとてもドキドキした記憶がございます。ところがいざ蓋を開けてみましたら、会場内にはあふれる学生でいっぱい！うれしさで思わずガッツポーズをしてみました。さらに私のつたない説明を、学生たちが熱い眼差しで聞いていただいていることがぐっと伝わってきたことを覚えています。

いざ、プロジェクトがスタートしますと、作業場でたくさんの本に囲まれてパソコンに向かって黙々と作業をしている学生たちの真摯な姿。この姿勢に私の方が刺激を受けた記憶がございます。赤字で修正されたリストの山を見ると、学生たちのこのプロジェクトへの想いが伝わってくるようでした。

参加された学生の皆様はいかがでしたでしょうか。この経験がみなさまの糧となればと願っております。ドナルド・キーン先生のように自分のやりたいことを見つけ、それに向かってまっすぐに。

みなさまのご活躍を祈念いたします。

東京都北区立中央図書館

図書係長 松元宙子氏

キーン氏の愛蔵書を公開している北区立中央図書館ドナルド・キーンコレクションは、氏の研究の足跡をたどるとともに、資料を利用者の読書に繋げることを目的としています。キーン氏には、著作やその執筆に使われた参考文献、交流のあった作家に関する図書などのご寄贈をお願いし、夥しい書き込みがある『渡辺崋山』『明治天皇』『正岡子規』等の参考文献や川端康成、安部公房のサイン入り図書など貴重な資料を自ら選んでいただきました。今回のプロジェクトでは、氏が晩年まで身近に置き大切にされた資料が書き込み情報なども含めてリスト化されました。蔵書の全体像が明らかになったことは、今後のドナルド・キーン研究の大きな礎となると思います。分類順に並んだキーンコレクションをご覧になった氏は、今までは本を探すのが大変でしたが、これならすぐに見つかります。と大変喜んでくださいました。今回のリスト化により、すべての蔵書が学生のみなさんの手で、すぐ探せるようになったことをキーン氏は何より喜んで下さると思います。

東洋大学非常勤嘱託

池上正男氏(現場監督者)

2023年8月28日をもって1年余り取り組んだ「ドナルド・キーン氏蔵書整理・調査プロジェクト」の蔵書整理作業が終了しました。私自身の契約も8月31日で終了して肩の荷が下りて”ホッ”とするとともに、作業計画を管理する立場の者としての準備不足、知識不足で、作業スタッフの学生達に負担を掛けてしまったことを反省しています。不十分な条件の中で、蔵書目録の作成に関わってくれた33名の学生達に心から感謝いたします。

この蔵書整理の特色は、図書館司書の資格を持たない学生達がキーン先生の蔵書約6,500冊について書誌情報を作成したこと、その書誌情報は一般的な書誌情報には出てこないキーン先生と書籍贈呈者の挟み込み情報や書込み情報など10項目を含んでいること、北区西ヶ原のキーン先生宅にあった蔵書約5,000冊は蔵書整理後に元通りの位置に戻せるようにする前提で整理していることです。

このようなプロジェクトに参加し作業を完了できたことは、学生達にとって大変意義深いことであり、また大学の事業としても画期的なことであろうと思います。プロジェクトの成果物の一つである学生達の作った蔵書目録が、今後多くの人々に利用されキーン先生の研究や業績を知る上で役に立つことを願って、私の役目を終わりたいと思います。

なお、蔵書整理作業の施設設備と備品を整えていただいた北区地域振興部の皆様、書誌情報作成方法をご指導いただいた北区教育振興部中央図書館の皆様、何かとお気遣いいただいたドナルド・キーン記念財団のキーン誠己様を始めとして学生スタッフにご支援いただいた皆様に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

東洋大学非常勤嘱託

飯村桂子氏(現場監督者)

ドナルド・キーン氏と東洋大学とのご縁で2022年8月から1年1か月かけて行われたドナルド・キーン氏蔵書整理・調査プロジェクトがひと段落したことに安堵しています。

29名の学生が参加して開始されましたが、本の整理作業など誰も未経験で手探りの中で進められました。和書、洋書、翻訳本、雑誌、パンフレットなど各種形態があり、1冊1冊、1ページ1ページ、挟み込みや書込みがないか丁寧に下調べすることが一番重要な作業でしたが、学生達は丁寧にコツコツと取り組んでくれました。書誌の入力方法については、反省点もありますが、黙々と作業を続けてくれた学生たちのお陰で、キーン氏がアメリカ在住時代に所蔵していた古い本から亡くなる直前まで手に取って読まれていた本にいたるまでの6,425冊のデータ入力を終えることができました。この蔵書データが今後、ドナルド・キーン氏研究の一助になれば幸いです。

**東洋大学文学部国際文化コミュニケーション学科
教授 石田仁志氏(現場監修者)**

学生たちの尽力に感謝—監修者としての挨拶—

今回のドナルド・キーン先生の蔵書調査整理プロジェクト完成に際する挨拶として、まず申し上げたいことは、作業に従事してくれた学生たちへの心からの感謝です。2022年7月から1年間、2年度にわたり授業の合間や長期休暇の時期に作業を続けてきてくれて、本当にありがとう。君たちの尽力がなければ、このプロジェクトは完成しませんでした。

蔵書1冊1冊の書誌情報を調査し、書き込みや挟み込みの状況を1ページ1ページ確認し、1冊につき72もの項目を入力していく作業は、本当に根気のいる作業だったと思います。キーン先生の蔵書総数は6,425冊でした。この数字も作業してみて初めて明らかになったことです。キーン誠己さんは今回のプロジェクトについて、「父は学生と話をすることがたいへん好きでした。東洋大学の学生が自分の蔵書を整理してくれたことをきくと天国で喜んでいきます」と仰っていらっしゃいます。その通りであろうと思います。東洋大学、北区、ドナルド・キーン財団の共同事業ではありますが、その成果は東洋大学の学生によるものであることをここに明記しておきたいと思います。

さて、今回のプロジェクトのお話を私が山口しのぶ文学部長から最初に伺ったのは、2021年12月でした。私はその際、以前にキーン先生が本学の学術顧問としてご講演いただいたときに、当時の日本文学文化学科の先生方と一緒に話を聞き、そのあとに白山の中華料理店で一緒にお食事をした時のことを思い出しました。ご講演では熱く日本文学文化の魅力を語り、食事の際に笑顔を絶やさず、私たちとの話の輪の中で楽しそうにくださっていたことを鮮明に覚えています。それも、何らかのお手伝いが出来れば幸いですとお返事をしました。その後、矢口悦子学長による事業体制が議論され、日本文学文化学科の高松亮太先生にサブリーダー、史学科の大豆生田稔先生にアドバイザー、全体の監修者を私が務めることになりました。各先生方にも大変にお世話になりまして、ありがとうございます。

そして実際の作業現場で、専従でサポートして下さった飯村桂子さん、池上正男さん、このプロジェクトの実質的な真のリーダーはお二人であったと思っています。学生たちと共に入力作業をされ、現場のすべてを運営して下さいました。ありがとうございます。また、エクステンション部の笠原昌江次長や他の課員の方々も様々なサポートをありがとうございます。北区やキーン財団の方々も勿論のこと、このプロジェクトに関わって下さったすべての皆様に心より御礼申し上げます。

私は結局、監修者とは名ばかりではなかったかと思っています。ただ、今回のプロジェクトに関わったことで、エクステンション講座「ドナルド・キーンの日本文学を学ぶ」や学科での講演会を開くことが出来、今後、この蔵書リストを本格的なドナルド・キーン研究へとつなげることが出来るのではないかと思います。それが、多くの方々の多大なるご尽力にお応えすることになれば幸いです。